

令和 7 年度 亀田東児童館事業実施報告書

1 実施した事業 2 自己評価 3 課題と対応

1 健全な遊びを通した児童の集団及び個別指導

① つくってみよう！（創作活動室）

5～6月「こものいれ」、7～8月「ぶんぶんゴマ」、9～10月「カスタネット」
11～12月「パカッとあく箱」、1～2月「めっちゃとぶ？！紙コップひこうき」、
3月「トコトコおどる紙コップ」

（自己評価）

作り方を掲示してこどもが一人で作れるように環境を整えた。興味を持ったこどもは、積極的に説明文を読んでから取り組んでいた。わからないこどもがいた時には、わかる子どもが丁寧に教えてあげる様子が見られた。幼児～小中高生が楽しめる内容に配慮した。出来上がった作品で楽しそうに遊んでいた。材料は 80 人分用意したが、2 週間ほどでなくなるほど人気だった。

（課題と対応）

土・日曜日は家族で制作を楽しむ姿が見られた。出来上がった作品を大切に持ち帰ってくれると企画して良かったなあと思うが、乱雑にふざけている姿を見かけた時には、注意をするが、すごく残念に思ってしまう。自由に取り組むことができるので、興味のない場合には、材料を無駄にしてほしくないと思う。みんなが使うものなので、大切に取扱ってほしいと思う。

② なっちゃんダンス・なっちゃんダンス DE クリスマス（遊戯室）

（なっちゃんダンス 毎月第 2 日曜 10 時～、
なっちゃんダンス DE クリスマス 12/14）

なっちゃん（下田奈津美先生）のダンスは、こどもたちに周知されているので、第 2 日曜日の 10 時にダンスを目当てに来館する。幅広い年齢層が楽しめる内容になっているので、幼児から大人が参加している。ダンスの技術向上を目指しているのではなく、ダンスを楽しむ、リズムに合わせて体を動かす楽しさを体感している。楽しくなりもっとやりたいと関心を抱いた子どもは、ダンス教室に通うようになっている。ダンス終了後、なっちゃんとおにごっこやボードゲームをやったりしてふれあいタイムもこどもたちのお楽しみの一つになっている。

③ むりえ教室・むりえコンクール（創作活動室）

（むりえ教室 毎月第 1 月曜 16 時～、むりえコンクール 7/25～8/26）

（自己評価）

むりえ教室と名称を変更してからわかりやすくなり、楽しみに来館するこどもたちが増えている。水彩鉛筆で塗り、綿棒に水をつけて延ばしたり、コーヒースティックで影をつけたり

本格的な技術を学ぶ機会になっている。ぬりえの題材も季節に合わせたり、江南区の建物や食べ物だったり身近なものを選んでた。

ぬりえコンクールは、こどもたちも楽しみにしているイベントになっているので、積極的に参加していた。第1～第4ひまわりクラブのこどもたちも参加した。結果発表がとても楽しみで、一日早く見に来たこどもたちもいた。中井先生がこどもの作品一人ずつにメッセージを書いてくれたので、先生の温かい人柄を感じた。

(課題と対応)

ひまわりクラブのこどもたちが参加しやすいように16時からの開始にした。興味をもったこどもたちが参加してくれるようになり、とても賑やかなわいわいした時間になった。今後もひまわりクラブと連携を取りながらすすめていきたいと思う。

④ サッカー教室・サッカー大会(遊戯室)

(サッカー教室 毎月第1・3水曜 15時30分～、サッカー大会 3/4)

(自己評価)

15時30分からの小1・2年生の集まりが悪く、少人数で行うことが多かった。人数が少ないからこそ、ボールに触れる機会が多くなり参加したこどもたちの満足度は高かった。

16時からの小3・4年生は、毎回人数が集まり活気ある活動になっていた。動きも素早く試合形式になるとお互いゴールをめがけてシュートを決めていた。秋葉区から通って来ていた小3女子は、ほぼ休まずに母親に送迎してもらい参加していた。

サッカー大会は、例年に比べると人数が少なかったが、こどもたちの満足度は高かった。優勝したチームは、自分の名前がトロフィーに残ることが嬉しくてたまらないといった表情をみせていた。

(課題と対応)

15時30分開始時間が、こどもたちにとって早すぎるのではないかと感じることもあった。特に低学年の部は、ほとんどがひまわりクラブに通っているため、集まりが悪いのは致し方がない状況だと思う。開始時間の変更も考えていかなければいけない。

⑤ 囲碁・将棋きょうしつ(毎月第2水曜 16時～)

(自己評価)

太野垣先生から指導していただき、こどもたちも少しずつ興味を持ち、毎月楽しみにしている様子が見られるようになった。ひまわりクラブのこどもたちも楽しみにして参加している。勝負に勝つ楽しさを感じてもらうことができた。楽しさを知ってもらうまでに時間がかかってしまうが、ルールさえ理解してしまえば自分の得意な遊びになっている。

(課題と対応)

館内が混雑してきた時に、創作活動室の占有ができなくなってしまう。参加人数に応じて半分のスペースで行ってもらうようにしている。囲碁・将棋に対してこどもたちの関心が持続するように勝敗表を大きな紙に書いて貼りだして、児童館で囲碁・将棋きょうしつを行っていることをお便りやインスタグラムなどで広報していかなければいけない。

⑥ 卓球きょうしつ（毎月第4水曜 16時～）

（自己評価）

太野垣先生に講師をお願いしている。参加人数は少ないときもあるが、10人のこどもたちが参加したりしている。人数が多い時には、先生だけでは指導ができないのでマシーンを使ってボールを打つ練習をしている。こどもたちは、ラリーが続くととても嬉しそうな表情を見せてくれる。もっとやりたい！楽しい！の気持ちを大切にしながら様子を見守っている。高学年の男子は、先生と対等に白熱したラリーをする時もあり、気楽に参加できることがいい事なのかなと思う。こどもにとって卓球の楽しさを知ってもらうきっかけになっている。

（課題と対応）

参加人数が、集まらないこともあるので、館内掲示でこどもたちに興味・関心をもってもらうようにしていく。

⑦ その他各種イベント

アニバーサリーまつり・山ノ下神楽5/18、

児童福祉週間こいのぼり製作・ぬりえ4/14～5/11、

親子DE ドッジ大会6/22、七夕工作7/1～7/7、サイエンスサーカス8/22、

GOGO スタディ7/28、7/29、8/25、8/26、12/26、

亀田中学校吹奏楽部コンサート9/15、ハロウィンデイズ10/29～31、

明訓高校吹奏楽部コンサート11/3、マジックショー1/7、山ノ下神楽2/23

カブラの日3/23

（自己評価）

5月「アニバーサリーまつり」は、コミ協さんからノートやらくがき帳を頂きこどもたちに配布することができた。また、当日スタッフとして地域の方々からお手伝いをして頂いた。中学生ボランティアとして中3女子4名が前日から参加してくれた。こどもクラブのメンバーもスタッフとして各ブースの受付など大活躍をしてくれた。毎回申込制にしているが、あっという間に定員に達してしまう。今回初めてオープニングに山の下神楽の舞を披露した。地域の方々も大勢見に来てくれた。今後連携を取りながら地域の伝統文化を披露する機会を設けていきたい。

親子DE ドッジ大会は、家族で参加する姿が見られた。試合中、こどもたちに気を遣いながらボールの強さを加減したり、時には本気モードでボールのやり取りが行われた。参加した保護者から「楽しかった！また参加したいです」と満足度が高かった。ドッジボールは、日頃からこどもたちに人気のスポーツなので、児童館ルールをこども会議で決めたりした。大会は、児童館ルールを広く周知させることができなかったのが残念だった。児童館だからこそできる地域のこどもたちとの交流の場を設けていきたい。

夏休み期間に開催した「サイエンスサーカス」は、こどもたちが化学に触れるきっかけになった。また、GOGO スタディは、7月開催の枠は、定員に即達してしまった。50分間シーンと静かに集中して課題に取り組んでいた。8月開催は、すでに宿題も終わったこどもたちが多く参加率が低かった。7月開催の回数を増やすなどの検討しなければいけない。

「ハロウィンデイズ」は、3日間開催したが先着100名が17時には景品がなくなってしまった。多くのこどもたちに参加してもらうことができた。3日間参加したこどももいた。中学生もたまたま早帰りだったので参加していた。こどもクラブのこどもたちがスタッフとして活躍してもらった。

亀田中学の校長先生の提案で吹奏楽部の演奏会をすることができた。当日多くの保護者、地域の方々から演奏を聴いてもらうことができた。今後も中学校との連携を取りながら生徒たちが発表できる場を提供していきたい。

明訓高校吹奏楽部コンサートは、昨年に引き続き開催した。選曲は、こどもたちが聴き馴染みのあるものを選んでくれたので、集中して聴くことができた。コンサートのプログラムの中にクイズを入れてくれたので参加型のコンサートになった。お土産にお菓子を配ってくれたのでこどもたちは大喜びだった。生徒さんたちのきめ細やかな配慮に心が温まった。

コミ協さん主催で「マジックショー」を開催した。ひまわりクラブのこどもたちも参加したので大勢のこどもたちで盛り上がる事ができた。マジックの手つきを真剣に見つめてどうにか種明かしを見つけようと集中して見ていたが、はっと驚く展開に「えっ！なぜ？」と首をかしげていた。地域との連携事業に今年は力を入れてきた。

「カブラの日」を開催した。移動児童館でナイヤガラやタワーを作ることが多かったので、児童館のこどもたちとひまわりクラブのこどもたちと一緒にカブラを楽しんだ。講師の田中先生から指導していただき「かまくら」やカラーカブラの楽しさを感じてもらう事ができた。

(課題と対応)

地域の方々から児童館に足を運んでもらう機会を設けてきた。児童館がどんなところか知ってもらうきっかけになった。誰でも気軽に足を運ぶことができる場になってほしい。

⑧ 移動児童館

(4/26/、5/19、5/26、7/25、7/30、7/31、8/20、8/21、
9/5、9/10、9/12、10/27、11/1、11/17、12/26)

(自己評価)

4月に江南区全部のひまわりクラブに希望を取った。来てほしいと依頼のあったひまわりクラブに移動児童館を行った。それぞれのクラブの意向に合わせてプログラムを作成して実施した。またひまわりクラブだけではなく、亀田東小学校の授業参観ではカブラの授業、早通小学校では文化祭で保護者も一緒にカブラの移動児童館を開催した。公民館では2回開催した。亀田第3保育園、まつば保育園、四つ葉こども園にも足を運んで児童館周知に努めた。

(課題と対応)

移動児童館は、どの施設にとっても外部との交流ができる機会になりとてもありがたいですと感謝の言葉を頂いている。今後も継続していくことが望まれると感じる。

⑨ じどうかん食堂

(8/18、1/7)

(自己評価)

夏休み、冬休み期間中に小学生対象に開催した。計画段階で館内飲食禁止事項が仕様書に載っていたので、健康福祉課に企画書を提出して内容を理解してもらい実施することができた。こどもたち、保護者の関心は高く、あっという間に定員に達してしまった。コミ協さんから全面的協力をもらい開催することができた。食材費、食事作りなど職員だけでは到底賄うことができなかった。8月は「塩おむすび・豚汁・ゼリー」1月は「カレーライス・みかん」を提供した。こどもたちは、「みんなとおしゃべりしながら食べることができて楽しかった。」「カレーが美味しかった。」と感想を話してくれた。また、地域の方々も参加してこどもたちの様子をみてもらうことができて良かった。

(課題と対応)

じどうかん食堂の継続が望まれている。今後補助金をもらう、フードバンクに登録するなどの策を講じて定期的開催できるように長期的計画が必要になってくる。地域の人たちを巻き込み、多くの大人たちとこどもたちが関われるように機会を設けていく必要があると思う。

2 中学生・高校生等の年長児童の自主的な活動に対する支援

(自己評価)

中学校の部活動は地域移行になったため、中1のこどもたちが、ほぼ毎日児童館に遊びに来るようになった。遊戯室でドッジボール、サッカー、バトミントンなどで友達と体を動かして楽しんでいる。女子は、職員とおしゃべりを楽しむこともあった。会話の中からこどもたちの様子をキャッチして健康福祉課に相談する事もあった。時間帯によっては、幼児、小学生、中学生が混在して落ち着いて遊ぶ環境が確保できない日もある。小学生の頃から通い慣れている場所なので、一番しやすい場所になっている。

(課題と対応)

携帯電話の使用、館内でガムを食べる、大声を出すなどルールを守れない様子が見られた。即注意をするが、なかなか聞き入れてもらえず強制退館してもらうこどもがいる。根気強く何度も声をかけ続け、やっと落ち着いてきたように感じる。安心して過ごせる居場所とは何か？考えさせられる。中学生が主役になれるようにイベントの企画・実施まで責任を持たせられるように関係作りをしていきたい。

① 中高生遊戯室タイム (遊戯室)

(平日 17 時 30 分～、土日祝 17 時～)

(自己評価)

中学生が来館しやすいように中高生タイムを設けている。この時間帯を目掛けて来館する様子が見られる。土日祝は、50 分間使えるので十分満足して体を動かしている。冬になると 17 時 30 分は遅いということで早い時間帯に予約を入れている。遊戯室で体を動かした後は、満足したのか即帰って行く。

(課題と対応)

中高生の来館を増やすために中高生タイムを設けていたが、現段階で中高生の来館人

数が昨年度の2倍になっているので、現状維持になっていくのか？部活動に代わるものを取り入れていくのか検討課題になっていく。中高生が社会貢献できる場の提供も考えていかなければいけない。

② 中高生卓球大会 7/21 (遊戯室)

(自己評価)

中学生2名の参加になったことが残念である。しかし、講師と一緒に自分たちだけで充分楽しめる内容になった。

(課題と対応)

遊びにきた中学生に参加を促したが、今一つ反応が薄かった。こどもたちが、何に興味を持っているかしっかりとリサーチしなければいけなかった。体を動かすことが好きなこどもたちなのでも参加したい内容を考えていかなければいけない。

3 子ども会等の地域組織活動の育成助長及び指導者の養成

① こども会議 (創作活動室)

(毎月第2土曜 9時15分～)

(自己評価)

6年生9名、5年生4名、4年生2名の15名が参加した。児童館のイベントにボランティアスタッフとして運営をサポートしてくれた。6年生が多かったので、4・5年生を引っ張ってくれていた。職員が気づかないことに率先して動いてくれてとても頼もしい存在になっていた。4月から運営会社が変わるため、3月に全員で卒業の会を開催した。みんなでカードゲームやバレーボールを楽しんだ。一年間こども会議に参加してイベントの担当を率先してやってもらい、一人一人に責任を持ってもらうことにより自立したように感じる。こどもクラブの活動を通して、ボランティアスタッフの役割、ボランティアとしての自覚を持ち、今後の活躍を願いたいと思う。

(課題と対応)

こども会議の日にちを忘れていた姿が多く見受けられた。連絡を入れて慌てて児童館に来るこどももいた。家庭向けにお便りを渡しているが、保護者の関心度が低かった。こども会議に参加するという意識の低さにも関連していると思う。こども一人一人がどのように活動しているか発信していかなければいけないと感じた。

4 子育て家庭の支援

① ひよこ広場 (毎月第2, 4木曜日 10時30分～)

第2木曜…誕生日会、第4木曜…リトミック

ひよこ広場豆まき会 1/29

(自己評価)

誕生日会の参加率が低かった。他の支援センターでも開催しているので児童館の誕生日会に興味をもってもらうことができなかった。常連の親子には、声をかけて参加を促すことができた。リトミックは、職員にリトミック講師の資格を持っているので定期的に開催することができ、参加率も高く毎回10組が参加していた。1年間頑張って参加した親子が2組いた。最初人見知りで母親の膝から離れなかったこどもが3月には、親から

離れて音楽に合わせて楽しむ姿を見ることができた。豆まき会は、あっという間に定員に達してしまい保護者の関心度の高さを感じた。オニの登場で泣き出すこどもの姿は、豆まき会ならではの雰囲気だった。最後にみんなで記念写真を撮ることができた。

(課題と対応)

0・1 歳児の参加がほとんどで、当日こどもの様子を見ながらプログラムを替えることもあった。誕生会では、参加してみたいという意識をもってもらうにはどうしたらいいのか？検討していかなければいけない。

② 育児イベント（毎月1回）

おひるね&おすわりアート撮影会 4/23、7/8、10/15、12/10

ベビーマッサージ 5/14、途中入園の話 6/13、4月入園の話 8/29、ベビーヨガ 9/19、うんどうかい 11/5、県立大石井ゼミによるクリスマスコンサート 12/3、

ひなまつりコンサート 3/2

(自己評価)

どのイベントも参加率は高く、あっという間に定員に達していた。電話が繋がりにくいと言って、開館前から玄関で並んでいる保護者の姿が見られた。常連の親子が参加できなく状況が見られた。おひるね&おすわりアート撮影会は、お便りと館内掲示のみの広報にしている。ベビーマッサージ、うんどうかいは、利用者の保護者が講師になり開催した。保護者にとってこどもが遊びに来ている施設で、自分の資格を活かせる場になった。

クリスマスコンサート、ひなまつりコンサートは、赤ちゃんが泣いていても周りを気にせず楽しめるので、リラックスした表情をしていた。育休明けから保育園に入園させる保護者が多いので、保育コンシェルジュさんに来てもらい情報提供を行った。児童館で開催することにより、こどもを遊ばせる施設で話が聞けることが参加しやすかった。

(課題と対応)

駐車場の関係で多くのこどもたちに参加してほしいが、どうしても定員を設けなければいけない。イベントしか児童館に足を運ばない親子もいるので、常連の親子が参加できるように配慮していかなければいけない。利用者から回数を増やしてほしい要望があるが、予算の関係上回数を増やすことができない。

③ BPプログラム“赤ちゃんがきた！”親子の絆づくりプログラム

6/3・10・17・24、11/25・12/2・9・16、2/24・3/3・10・17

(自己評価)

年間4回を予定していたが、3回実施することができた。参加者は、江南区、南区、東区、北区から足を運んでくれた。第一子の赤ちゃんを持つ母親という共通点から悩みごと、不安なこと、パートナーに対しての思いなど気軽に話すことができた。回を増すごとに母親の表情を明るくなり、話したくて仕方がないという雰囲気を感じた。赤ちゃんも首が座ったり、寝返りをしたり、お話をするようになったり、成長過程を見る場にもなっていた。講座に対しての満足度は高く、講座終了後も繋がり、情報交換をしていた。

(課題と対応)

なかなか人数が集まらないことが課題となる。健康福祉課から協力してもらい、新生児訪問、股関節健診にチラシを配布してもらっている。これからも自主事業で継続していけたらと思う。悩んだら即ネットで情報を収集できるが、何が自分に合っているのかわからなくなってしまう。実際他の母親と会って話をすることにより、共感してもらい共有することにより、「自分だけじゃない」と思うことにより心の重荷が軽くなっていく。この講座は虐待防止を目的にしているので、多くの母たちに受けてもらいたい。

5 その他地域の児童の健全育成に必要な活動

亀田東児童館運営委員会は、運営協議会会長（亀田中学校コーディネーター兼民生委員）、亀田東小学校長、亀田中学校長、亀田東小学校区コミュニティ協議会会長、江南、区福祉協議会、指導保育士、保護司、学識経験者、主任児童委員、亀田東小 PTA 副会長を員として迎え、計 10 名の委員の方々と共に児童館の運営に関して協議を重ねた。第 31 回を 6 月 24 日（火）に開催し、令和 6 年度の収支報告、令和 7 年 2 月～5 月までの利用者推移と活動報告、今年度の活度予定について報告をした。第 32 回は 2 月 16 日（月）に開催。令和 7 年 6 月～令和 8 年 1 月までの利用者推移と活動報告を行った。委員の方々から温かい言葉と労いの言葉を頂いた。また今後に向けて、中学生の利用人数増加に伴い、中学生が主人公になる場面を作ってほしいと中学校長から意見がでた。中学生が主体的に活動できる場を提供していきたいと思う。小学生は、こどもクラブでボランティアスタッフとして活動している。こどもたち、保護者、地域の人たちが社会貢献できる場になるよう児童館になってほしいと願う。

総括・評価

今年度は、中学生の利用が大きく増えたことが特徴になっている。ほぼ毎日中学生が来館している。特に夏休み期間中は、幼児、小学生、中学生が狭い空間に入り混じっている状況になっていた。中学生にとって安心して過ごせる居場所作りが今後も課題になってくる。中学生女子は、ただ友達としゃべりたいと言って遊戯室の真ん中に座り込んでしゃべっている。男子は、ドッジボール、サッカー、バトミントンなどスポーツを楽しんでいる。学校とは違う一面を出しているのも、様子を見守っている。気になった時には、健康福祉課、中学校、民生委員と連携を取りながら情報共有を行っている。来年度も中学生の利用増が見込まれる。中学校と連携を取りながら、ボランティア活動及び自分たちがやりたいことを企画・運営ができる機会を作っていかなければいけない。

小学生は、亀田東小のこどもたちが多く来館しているが、土・日・祝日は、江南区以外の地域から遊びに来ている。遊戯室で体を動かして遊んだ後、ボードゲーム、カードゲーム、自由工作、パズル、マンガを読むなど自分の好きな遊びを見つけている。親子で楽しむ姿も見られる。友達と一緒に遊んだり、家族で遊ぶ場になっている。

乳幼児親子は、土・日・祝日になると父親の姿が多くなる。お互い協力しながら育児をしている様子が伺われる。

こどもたちが多くの大人たちと関われる場を作ってきた。じどうかん食堂、おまつり、

マジックショーで児童館に足を運んでもらうことができた。気軽に地域の方々が足を運ぶことができる行事を企画して周知してもらうことが大切になってくる。まつりやハロウィンなど地域を巻き込んだイベントが開催できたらと思う。

じどうかん食堂では、大勢の人とおしゃべりしながら食べる楽しさを感じてもらうことができた。手作りの豚汁、カレーライスを「おいしい」と言いながらパクパク食べるこどもたちの笑顔が印象に残っている。大勢の大人たちが見守る中、安心して楽しく食べる経験をさせることができる場を提供していきたい。今年度は2回開催することができたが、地域の人たち、行政の力を借りながら継続できる方法を見出していきたい。

長期休み中に開催することにより、きちんと食事をとってほしいという願いを込めている。こどもとの会話の中で朝食を食べない、コンビニで買って一人で食べているなど不規則な食生活を感じる。今後も定期的に開催する方向性を見つけていきたい。地域の人たちの力を借りながら運営できるようにしていきたい。

職員が地域の人たちと交わる場を意識的に設けて来た。コミ協のイベントに積極的に参加してきた。豚汁作りのお手伝い、クリーン作戦などに参加することにより、地域の人たちの輪の中に入り、会話をしてコミュニケーションを取ってきた。地域の様子をみるきっかけになった。これからも地域の人たちと顔馴染みの関係性を大切にしていきたい。